

子どもたちの
より良い教育環境のために

2026
MARCH
3

TOPIC これまでに決まった内容を子どもたち、保護者及び地域に説明しました。

第５回までの準備委員会において、基本的な事項となる「統合の時期」、「活用する校舎」及び「小中一貫教育の形態」が決定されました。これら決定した内容を、全校朝会で子どもたちに説明するとともに保護者におたよりでお知らせし、地域で進捗説明会を開催しました。

□□■ 全校朝会で子どもたちに説明

統合の話に、ワクワクしたり不安に思ったりした子どもが多いと思います。これまで以上に５校の交流を重ねるなど、子どもたちが令和10年４月に不安なくスタートできるように準備を進めていきます。



説明スライドより抜粋

□□■ 地域での進捗説明会

参加いただいた方からは、子どもたちの不安に対するケア方法など、多くの御意見を頂きました。頂いた御意見を踏まえて、更に検討を進めていきます。


進捗説明会の様子

TOPIC 校名、校歌、校旗及び校章の検討が始まりました。

第６回準備委員会では、統合小学校の校名、校歌、校旗及び校章の検討が始まりました。委員からは校名等の決め方について、まずは率直な御意見を発言いただきました。今回頂いた様々な御意見は、一度、教育委員会事務局が預かり、次回の準備委員会で今後の検討方法の案をお示しすることとなりました。

第６回準備委員会

○日　時　２月25日（水）
○場　所　下田中学校食堂
○内　容　統合小学校の校名、校歌、校旗及び校章について

担当　三条市教育委員会教育総務課庶務係（井上・富樫）
電話（0256）45-1111

進捗説明会概要

森町小学校会場（2月20日）

市長あいさつ

準備委員会は校舎視察を含めて、5回の会議を開催し、委員には各回1時間半、ときには2時間、地域のため、現在及び将来の子どもたちのために思いを持って議論いただいた。この準備委員会では、大きく4点決定いただいた。1点目は小学校の統合時期を「令和10年4月」とすること、2点目は活用する校舎を「飯田小学校」とすること、3点目は小中一貫教育の形態を中学校と小学校の校舎が離れた「小中一貫教育校の施設分離型」とすること、4点目は将来下田中学校の校舎に小学校を統合するに当たっては「統合を経験した児童が2回統合を経験しないように配慮すること」である。皆さんの中には様々な思いをお持ちの方もいると思うが、これは決定であり、4点とも委員の皆さんが子どもたちのため、地域のために決めたということを御理解いただきたい。

進捗説明会は、この準備委員会の思いを保護者及び地域の皆さんに伝えるべきと考え開催した。進捗説明会を含めこれからも保護者及び地域の皆さんに統合の検討経過をお伝えし、皆さんの御意見をお聴きしたいと考えている。

引き続き、令和10年4月の統合まで子どもたち及び地域のために前に進めていくのでよろしくお願いしたい。

Q 小学生のうちに統合を2度経験することがないように配慮するとあるが、中学生になって中学校校舎に小学生が入ってくることも大きな環境の変化で負担である。その配慮はないのか。

A 中学校校舎への小学校統合については、小学生のうちに2度の引っ越しがないように令和15年度以降を想定しているものの、実際の子どもの人数の推移がどうなるかという見込みは難しい。一人の子どもの環境変化が少ないようにという御意見、子どもの人数の推移を見据えて、できるだけ配慮して進めていきたい。

Q 統合校の先生は、現在の各小学校からどのくらいの人数配置されるのか。

A 先生の人事権は新潟県教育委員会にあるので、三条市教育委員会は県に要望する。現在、各小学校にいる先生が統合校に配置されることは必須であると考えている。ある程度の人数の先生が統合校に配置されるように県に強く要望していく。

Q 統合で2クラスになる学年はどのようにクラス分けを行うのか。

A 現在、同じ学校の子どもたちはクラスを分けることが一般的である。しかし、例えば、学年に3人しかいないのに2人と1人にクラスを分けるのかということもある。3人のために同じクラスがよいのか、分けて新しい友達を作った方がよいのかは、在籍する小学校の先生と協議して決定していく。

Q 子どもたちの不安に対してどのようにケアしていくのか。

A 先日、全校朝会で統合について説明し、子どもたちも驚いたと思う。御心配をおかけしたことをお詫びする。教育委員会としては、子どもたちが他の子どもと付き合っていく社会性を大事にしたいという思いである。統合を進めていく上で1年生から6年生の発達段階に応じて、学校を通じてしっかりと子どもたちに働きかける。また、小中連携に加え小小連携を進めているが、これまで以上に活動を活発化させて統合に向けて進めていく。

Q 先生の配置について、県教育委員会とは別に、市教育委員会が追加の先生を配置し、子どもたちに手厚く寄り添うことはできるのか。

A 市教育委員会ができることは、先生と同等の講師を配置することと、心のケアをする心理専門相談員を手厚く巡回させることである。

Q 統合後に子どもが不登校になった場合、どうするのか。

A そうした状況にならないように、準備委員会の御意見を聴きながら教育委員会及び学校が準備を進めていく。

意見 荒沢小学校と森町小学校が統合したときの保護者であった。子どもたちは統合してもすぐに慣れて、みんな友達になったようだった。保護者は、先生と子どもたちの状況を密に情報交換して、そういう雰囲気づくりや意識の醸成ができるかが大切である と思う。保護者や地域は意見について言うことは言っていただき、地域のためになる統合を進めてほしい。

事務局 今回の小学校統合では、ＰＴＡはもちろん地域の御意見も聴くために、学校運営協議会及び学園運営協議会の委員から準備委員会に入っていただき、総勢60人程度で進めている。この準備委員会の中でしっかりと皆さんの意見を反映していきたい。

教育長あいさつ

貴重かつ極めて重い御提言をいただき、これから私達はしっかりと進めていかなければならない問題であると考えている。本日も白銀に輝く守門粟ヶ岳の風景を目に焼き付けた。まさに下田地域の自然風景、歴史、農業及び文化を始めとする地域産業は、子どもたちにとってはすばらしい教育資源である。現在、各小学校がこの教育資源を活用して教育活動を展開しているが統合することで5つの小学校の良いところを一つに集約して、みんなが羨むような笑顔輝く楽しい学校を創らなければならない。

次回の準備委員会から部会が始まる。学校運営、登下校及び教育課程について、貴重な御意見を頂きながら、統合小学校を創りあげる道のりを歩んでいく。皆さんからは、忌憚のない御意見及び御提案をお聴かせいただき、これからの道のりを見守り、叱咤激励していただくことを切にお願いする。



進捗説明会の様子（森町小学校）

ウェルネスしただ会場（2月21日）

※市長及び教育長あいさつは省略

Q 飯田小学校校舎の改修工事はどこをどう改修するのか。また、児童クラブの受け入れは教室の面積によるとあるが飯田小学校の教室は何人受入れできるのか。

A 飯田小学校校舎の改修工事の内容は、詳細は現在詰めているところであるが、内容はコンピューター室を普通教室化する改修、特別支援教室を区切るパーティションの設置などを想定している。また、児童クラブの基準があり、その面積を確保していくための改修なども想定している。

Q 統合時、特別な支援が必要な子どもにはどのような対応をするのか。

A 障がいの種類や程度により状況が違うため、その子どもにあった個別の教育支

援計画と個別の指導計画を作成して学習を進める。例えば、一人一人に応じたカリキュラムを設定して学習を進めたり、コミュニケーション能力や社会性を高める自立活動の時間を行ったりし、特別な教育課程を編成して学習を進める。

Q 部会の委員構成はどのようになり、保護者の声は反映されるのか。

A 各部会の委員は、しただの郷未来の学校設置準備委員会の委員で構成されている。準備委員会は保護者、地域及び学校のバランスをとって構成している委員会であり、その中でバランスよく意見を反映してもらいたいと考えている。

Q 子どもたちは、楽しみな反面、不安も大きい。スクールカウンセラーを常駐させる考えはあるか。

A 現在、県教育委員会が配置しているスクールカウンセラーは、下田地域に週1回派遣している。これとは別に、三条市教育委員会が心理専門相談員を必要に応じて学校に派遣している。今後も、子どもたちの様子を見た中で、相談できる体制は確保できると考えているが、意見については必要に応じて検討していく。

子どもへの支援体制は一番大切である。意欲を持って笑顔で令和10年4月に統合校に通えるか、また、飯田小学校の子どもたちがどのように他の学校の子どもたちを受け入れることができるのか各小学校に十分考えていただき、各校が様々な交流をすることで仲間同士が顔見知りになり、何の障壁もなくスムーズに統合できるようにしなければならない。特別な支援が必要な子どもを含め、個々の子どもへの支援体制は県が配置する職員に加え、市が特別支援サポーター、スクールサポートスタッフ及びスクールアシスタントなどの職員を配置し、しっかりと子どもたちを見守る必要がある。県への要望もしながら、2年間かけて体制を整えるよう計画していく。


進捗説明会の様子（ウェルネスしただ）

下田公民館会場（2月23日）

※市長及び教育長あいさつは省略

意見 駐車場の拡充を約束してほしい。

意見 駐車場は、ウェルネスしただなど近隣の徒歩10分圏内に複数ある公共施設を活用するなど、拡充だけでなく、借用することを含め柔軟に考えていただきたい。また、ウェルネスしただの駐車場を借用することとした場合、同時間帯に学校とウェルネスしただでの事業が重なると、お互い困ることになる。事業管理も含めて、検討いただきたい。

事務局 統合により児童数が増えることで保護者等の集まる人数が増え、その分の駐車場が必要なことは想定している。駐車場の確保についてもしっかり検討していく。

意見 下田地域は自然や人情が良いところであり、住み続けられるようにしたい。小学校が無くなれば、人口減少に拍車がかかるのではないか。どうしたら下田地域に住み続けることができるのかを考えてほしい。学校は大きければ良いというわけではなく、小さい学校の良いところもある。統合は、地域のことも一緒に考えてほしい。

事務局 そうした御意見は、統合の検討をするに当たり早くからいただいてきた。令和6年度に「未来の学校検討委員会」で、市内の小学校の在り方を議論した中で、下田地域の人口減少傾向が著しいということで、まずは下田地域の小学校統合の検討を始めた。現在、既に5校中3校で複式学級の運営をしている。子どもたちの社会性を育むためには、一定の規模で学習することが必要である。むしろ、「なぜもっと早く統合をしなかったのか」という御意見もいただいている。遅きに失することのないよう、統合を決めたことを御理解いただきたい。

意見 保育所及び中学校が近くにある立地条件を見れば、長沢小学校の校舎を活用するものと思っていた。保護者は、駐車場ではなく立地条件を重視している。もっと保護者や子どもの意見を聴いてほしかった。

事務局 長沢小学校と飯田小学校の校舎のいずれかを決定する経過は、本当に甲乙付け難く、準備委員会でも苦しい判断だった。スクールバスへの対応や、駐車場・校内道路など、大きな要因となったことは確かである。現在、長沢小学校のスクールバスは2、3台の運用であり問題はないが、統合後、スクールバスを10台程度運用することを仮定したとき、十分な安全が確保できるのかが課題であった。スクールバスは毎朝運行するものであり、乗降時に万が一でも、子どもが事故にあっては取り返しがつかないことになる。安全が確保できる可能性が少しでも高い校舎に決定したものであり、御理解いただきたい。

意見 保護者は統合をすることを非常に不安に思っており、心配である。引き続き情報を過剰なほど発信していただきたい。個人的には長沢小学校の校舎を活用してほしいが、子どもの安全が第一である。クマ等獣の出没が相次いでいる中、安全を守るために必ずスクールバスでの登下校の検討を進めていただきたいが、そのスクールバスで事故があっては本末転倒である。そこに気づいて提案いただいたことは納得せざるを得ないと思っている。今後は、子どもたちの心のケアを大切にしてほしい。あと2年しかない。他校との交流をいかに進めるのか。統合後に、子どもたちが楽しみに登校できる準備を進めていただきたい。

事務局 子どもたちの心のケア、特に交流活動については令和10年度に向けて、既に校長と検討をしている。具体的には、小学校の交流でペア校やトリオ校の組み替えや、ペア校やトリオ校の活動であったものを5校一緒に交流することなどを考えている。学校任せにせず、教育委員会も共に対応していきたい。

意見 子どもに統合の話をしたら、「学校がなくなる」といって涙を流した。また、学校で統合の説明を子どもたちにしたとき、涙を流す子どもがいたと校長から聞いた。子どもたちは既に不安であると感じた。この不安を取り除くのは保護者、学校及び保育所の先生である。受け入れる飯田小学校の子どもたちのケアも同様に、きめ細かいケアを引き続きお願いしたい。

事務局 今回の統合において、子どもたちの不安を取り除き、寄り添うことは、最も大事なことである。ペア校やトリオ校の取組や5校の連携の取組、また、日常の学校生活においてもできる限り声かけを行うことを含めしっかり考えていきたい。

意見 知らない小学校に通わなければならないことも不安であると思う、子どもたちに飯田小学校の校舎を見る機会を何度か与えると良いのではないか。

事務局　おっしゃるとおり、校舎に慣れることも大事だと感じた。飯田小学校の校舎を使った交流活動や取組を検討したい。

Q　廃校となる校舎の利活用について、市の考えはどうか。

A　これまでは統合先の校舎が決まっておらず、廃校となる校舎の利活用について話はしなかった。これからは、４校の校舎の利活用を真剣に考えていく。４校とも災害時の避難所となっており、その機能は残しつつになる。地域の声を聴きながらも、利用可能な校舎が４校にもなるので、民間企業・民間団体の活用も募らなければならないと思う。これから、地域や民間企業・民間団体など、様々な意見を募っていく。

意見　数年前の大雨のとき、飯田小学校は避難所にもかかわらず周囲が水浸しで誰も近づけず避難できる状況ではなかった。結局、障がい者施設であるピュアハウスが避難所となった。大雨となると、五輪峠から想像できないほどの濁流が来る。五輪峠の坂道が川になり、田んぼや畑に濁流が流れる。五十嵐川の氾濫よりも五輪峠からの濁流の方が怖い。避難所を見直した方が良いと思う。

事務局　避難所は今がゴールの形ではない。常々見直しを行うことで子どもたちの安全を守っていきたい。今後とも御意見やアドバイスをいただくようお願いする。

意見　地域から学校がなくなることは、地域からコミュニティがなくなることである。学校を中心にコミュニティが形成されるため、学校がなくなるとコミュニティが崩れていく。将来の下田地域が不安である。

事務局　学校を核とする地域コミュニティは十分に考えており、地域とともに歩む学校づくりを教育委員会から校長先生にお願いしている。多くの自治体で学校の統合が進んでいるが、どの自治体も地域との関係は大切に検討している。しただの郷学園全体で、新しい学校を中心とした新たなコミュニティを考えていかなければならない。各小学校が地域資源を活用して教育活動をしてきた。統合校もその教育活動を受け継ぎ、子どもたちはその地域資源の場所に赴き、地域を愛することを学んでいく。温かい教育資源を創っていただいた皆さんのコミュニティを無駄にすることなく、どのように活用するのか考えていく。

意見　下田地域の特色をいかした教育を進めていただきたい。また、子どもたちの統合に対する不安を和らげる取組を進めてほしい。自分も下田地域に住む一員として力になれればよいと思った。

事務局　統合については、皆で考えて意見を出し合いながら実行していく。最終的な責任は我々にあるものの、皆さんからも意見を頂きながら、下田地域全員が一丸となって、子どもたちの未来及び地域のために一緒に学校を創っていきたいと考えている。皆さんの御意見を頂くようお願いしたい。


進捗説明会の様子（下田公民館）

第６回準備委員会概要

市長あいさつ

準備委員会の皆様には、活用する校舎という一番大きな御判断をいただいた。市長という職は、大きな問題を判断するときが一番負担がかかる。今回の小学校統合の進め方は、我々が決定して皆様に諮るという選択肢もあったが、皆様に丁寧に議論いただき、その結論を頂いた。このプロセスを踏んだ上で一定の合意をいただけたことは、下田地域のみならず三条市全体にとって非常に大きな財産になると思う。今後、中学校統合や他の地域の学校統合をせざるを得なくなったとき、今回のプロセスが生きてくる。これまでの判断や議論に対して自信を持っていただき、開校までの2年間、下田地域の子どもたちや地域のために引き続き議論いただくようよろしくお願いしたい。

統合小学校の校名、校歌、校旗及び校章について

【議事】第５回準備委員会では、「小中一貫教育校の施設分離型」に決定した。また、その後、下田中学校校舎に小学校が統合するときには、子どもたちが2回引っ越しを経験しないよう配慮し、そのときの形態は状況を見て判断することとした。さらに、令和10年４月の小中一貫教育校の施設分離型の段階で、将来、義務教育学校などとなったとしても使えるような校歌等を設定するなどの工夫を行うこととしていた。

進捗説明会では、校舎や駐車場のハード面だけでなく、先生の配置やクラス分けなど子どもたちの心のケアについての心配が多かった。校名、校歌、校旗及び校章は子どもたちの心に影響を及ぼす重要な検討事項であると思う。まずは、決め方から決めたいと思う。意見を発言願いたい。

意見 校名等のいずれかをＰＴＡや子どもたちに決めてもらうことで、思い出や誇りにつながるのではないかと思う。今回の統合をネガティブに捉えている人もおり、自分たちが議論に加わることでポジティブに切り替わるきっかけとなるのではないか。

意見 校名等については、制定しても５年程度でなくなるようでは寂しい。一方で、校歌は、令和10年４月の段階で中学校の校歌を変えると中学生にストレスを与えるのかもしれない。中学校校歌のメロディーを残して、歌詞を子どもや保護者が考えることでもよいのかもしれない。

意見 旧下田村は教育の村という歴史があることを考えると、校名は「下田小学校」が良いと思う。また、下田中学校の校章が旧鹿峠中、長沢中及び森町中を三角形で表していることを考えると、校章は「５つの小学校で五角形」としてもよいのではないか。

Q 校歌は子どもたちが好きなミュージシャン等を選んで、その人に依頼することはできるのか。

A 依頼することはできるが中学校校舎に小学校が統合したときに、その校歌を使い続けることができるかを考えなければならない。

意見 校歌は、下田中学校の校歌が良いと考える。校名、校旗及び校章は、各学校で保護者や子どもたちの意見を聴いてはどうか。

意見 校名等を決めるプロセスを決めると良いのではないか。旧中浦小学校の校歌は諸橋轍次博士が作詞をしている。例えば、校旗や校章は、下田地域にゆかりがあるデザイナーに作成を依頼するなどとしてもよいと思う。

意見 旧鹿峠中学校の校歌は、生徒会が作詞をした。

意見　保護者等を巻き込むことはよいと思う。例えば、校名のアンケートをとるなど多くの方に参加いただきたい。校歌は、子どもたちが喜ぶような人に依頼すると、他校から羨ましがられるような学校になるのではないか。校旗や校章は義務教育学校などとなったとしても使えるようなものを決めなければならない。校名は、下田小学校でもよいが、義務教育学校となったときに変わることはよくないのではないか。

意見　おそらく義務教育学校となれば「しただの郷学園」となるのではないか。小学校であるうちは愛着のある名前でもよいかもしれない。

意見　校歌は、なるべく著名な人に作詞、作曲していただくとよいと思う。また、中学校の校歌のメロディは小学校の子どもたちが歌うには難しいと思う。校歌は、令和10年4月の段階で中学校も含めて新しく制定した方が良いと思う。中学校の校歌が変わることになるが、小学生の統合のストレスを思うと中学生には許容していただいてもよいのではないか。校旗は、旧下田村全域ということで、旧下田村旗としてもよいのではないか。

意見　小学校5校は廃校となる。5校合同の卒業制作という形でプロジェクトを立ち上げてもよいのではないか。

意見　校歌や校章をいつまで使うのかを決めた方がよい。有名な人に依頼しても、すぐに無くなっては失礼である。校歌等の決め方はテレビ番組の企画でタレントを呼んで創るということでもよいのではないか。

意見　一度、各学校運営協議会に持ち帰り、保護者等の意見を集約してもよいと思う。

【提起】　校名、校歌、校旗及び校章は、その学校のアイデンティティであり、重要な検討事項である。検討の方法をお諮りした今回の準備委員会では、こちらで予断を持たず、皆さんの率直な思いを聴かせていただいた。各学校運営協議会に持ち帰っていただくのも一案だが、教育委員会事務局が今回頂いた様々な意見を預かり、まずは次回、今後の検討方法の案を示すことでいかがか。

（全員異議なし）

【決定】校名、校歌、校旗及び校章については、教育委員会事務局が今回頂いた様々な意見を預かり、次回、今後の検討方法の案を示すこととする。

□□■ 次回の準備委員会の予定

本年度中は今のところ予定しておりません。開催日が決定しましたら、ホームページでお知らせいたします。

□□■ これまでの準備委員会の経過はこちら

したただの郷未来

□□■ 学校の在り方について、ご意見をお聞かせください

学校の在り方についてのご意見等がありましたら、ぜひお寄せください。お寄せいただく方法は、電話又はグーグルフォームでお願いします。

グーグルフォームの入力はこちら→